

3 簡易収穫表の作成に関する調査（県単：H29～31）

宮崎 潤二

目的

長伐期施業に対応した、スギおよびヒノキの簡易収穫表の調製を行う。

1 調査の方法

平成29年度は、スギの簡易収穫表の調製に向けて、成長データの分析に着手した。分析にあたっては、既存のスギ林分調査データ（約70件、林齢7～57年）に加えて、平成22年度から27年度にかけて実施した森林資源モニタリング調査の成果（スギ284プロット、林齢40～107年生）の調査データを利用した。

2 方法と結果

対象となる各林分内のスギについて、林齢と平均樹高の関係について検討した。解析には、統計ソフト（LightStone社 Origin）を利用した。その結果を図-1に示す。

林齢ごとの平均樹高は非常にばらつきが大きく、特に高齢級側では、平均樹高に大きな差異が生じた。これにはいくつかの要因が考えられたが、そのひとつとして、スギには多くの品種（在来品種や精英樹等）があり、成長が早い品種と遅い品種との差異が大きいことが挙げられる。

今後は、このばらつきについて検討を加えつつ、県内のスギの標準的な成長量について、検討を加えていく。

また、平成30年度は、ヒノキについても、簡易収穫表の調製に着手する予定である。

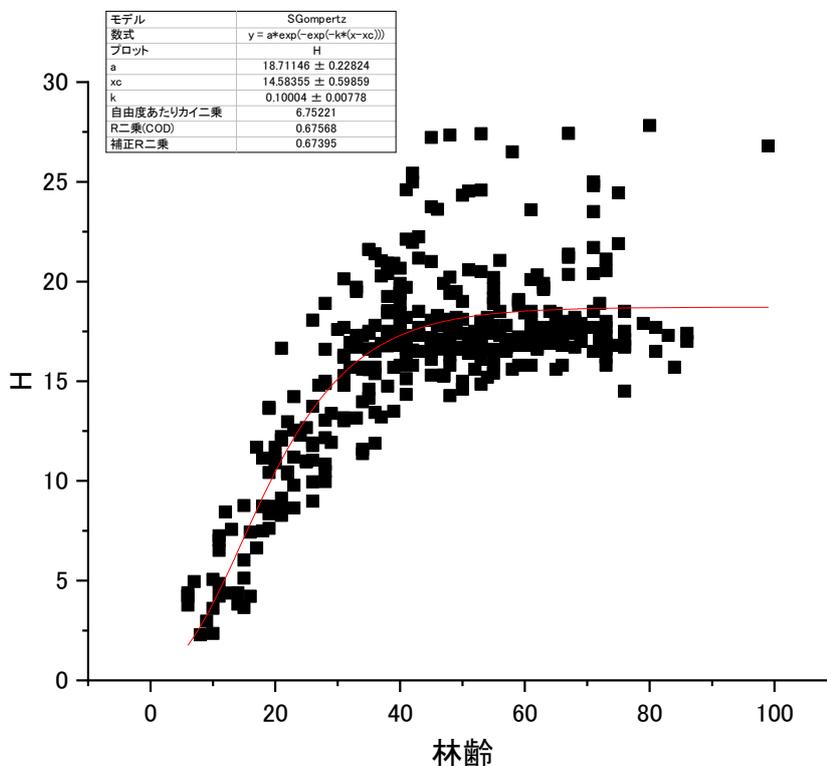


図 1 スギ樹高成長曲線